

平成 30 年度 事業報告書

事業の概要

平成 30 年度は、次の事業を実施した。

1. フォーラム「メンタルヘルスの集い(第 33 回日本精神保健会議)」の開催

今年度は、「現代のひきこもりにどう関わるか」をテーマに実施した。

ひきこもりは、1990 年代に当事者、家族の大きな労苦に結びつく状態として注目され、以来、多くの議論が交わされてきた。その議論には、ひきこもりを社会との関わり方の一つとして見るものから、現代社会の問題の顕れとして捉えるものまで、さまざまなものがある。ひきこもりへの精神保健的対応・支援としては、これまでに多くの努力が積み重ねられてきた。しかし近年では、中高年層のひきこもり当事者が増加する、あるいは青少年を中心にネット・ゲーム依存との関連が強まるといった変化が生じ、従来の支援や対応とは異なる捉え方、考え方が必要になってきている。そこで、ひきこもりに繋がる可能性が高いネットやゲームに依存する子どもたち、全国に 60 万人以上存在するという中高年齢のひきこもりに、どう対応しどんな支援をしていくべきかを考えることとし、ネット依存治に関わる精神科医や保健師、家族会の代表者、ジャーナリストなど様々な分野の専門家を講師に迎え、以下のような内容でフォーラムを実施した。

また、特別プログラムとして呉秀三の「精神病患者私宅監置ノ実況」論文発表 100 年を記念して製作したドキュメント映画「夜明け前―呉秀三と無名の精神障害者の 100 年―」を上映し、改めてわが国の精神医療の歴史や障害者への差別・偏見について理解を深めた。この映画は、第 60 回科学技術映像祭の文部科学大臣賞（教育・教養部門）を受賞した。

フォーラムの実施にあたっては林直樹理事を委員長に、市川宏伸、岡本淳子、近藤直司、羽藤邦利の各氏に準備委員を委嘱した。

なお、本フォーラムは「平成 30 年度健康や命を守る医療の活動」として、公益財団法人 J K A より競輪公益資金の補助を受けて実施した。

メンタルヘルスの集い（第 33 回日本精神保健会議）

日 時：平成 31 年 3 月 2 日（土） 10：15～16：00

会 場：有楽町朝日ホール（東京都千代田区有楽町 2-5-1）

テーマ：現代のひきこもりとどう関わるか

内 容：特別講演 ネット・ゲーム依存とひきこもり

中山秀紀（国立病院機構久里浜医療センター・医長）

映画上映 「夜明け前―呉秀三と無名の精神障害者の 100 年―」

シンポジウム 「現代のひきこもりへの対応と支援を考える」

近藤直司（大正大学心理社会学部教授）

小田克朗（読売新聞東京本社社会部記者）
山本洋見（KHJ 全国ひきこもり家族会連合会理事）
東出 香（中部総合精神保健福祉センター地域支援科医長）

指定討論

羽藤邦利（東京都精神神経科診療所協会理事）
是澤篤志（ひきこもり体験者）

コーディネーター

林 直樹（帝京大学医学部附属病院精神科）
岡本淳子（国際医療福祉大学大学院）

総合司会 池田真理（東京女子医科大学）

参加者：380名

このフォーラムの内容は本会の広報誌「心と社会」176号（2019年6月発行）
に収録する。

2. 精神保健シンポジウムの開催

全国の主要都市において、その地域の大学・精神保健関連団体等と共催で、
地域が直面する精神保健に関する課題等をテーマにシンポジウムを開催して
いるが、本年度は下記のとおり実施した。

①第73回精神保健シンポジウム（岡山）

日 時：平成30年7月21日（土） 13:00～16:30

会 場：岡山大学 Junko Fukutake Hall（岡山市北区鹿田町2-5-1）

共 催：岡山大学大学院精神神経病態学教室（山田了士教授）

テーマ：セクシュアリティの多様性について語り、感じ、知る

内 容：基調講演

「SOGIESCについて」

康 純（大阪医科大学精神医学教室准教授）

: シンポジウム

「生きづらさを乗り越えて」

鈴木富美子（プラウド岡山代表）

「性の多様性を認め合う児童生徒の育成」

松尾真治（倉敷市教育委員会人権教育推進室主幹）

「シンポジウムでの話題として」

南 和行（なんもり法律事務所弁護士）

「性同一性障害に対する身体的治療」

難波祐三郎（岡山大学病院ジェンダーセンター教授）

: 総合討論

司会 山田了士（岡山大学大学院精神神経病態学教室教授）

松本洋輔（岡山大学病院ジェンダーセンター講師）

参加者：36名

なお、このシンポジウムの内容は本会の広報誌「心と社会」174号（平成30年12月14日発行）に収録した。

②第74回精神保健シンポジウム（大津）

日 時：平成30年11月25日（日） 13：00～16：30

会 場：滋賀医科大学リップルテラス（大津市瀬田月輪町）

共 催：滋賀医科大学医学部精神医学講座（栗山健一准教授）

テーマ：こころを育む眠り

内 容：基調講演

「生涯を通じた睡眠とこころの健康」

内山 真（日本大学医学部精神医学系主任教授）

：シンポジウム

「育ち盛り世代の眠りと健康・発達・生産性

—お母さんと子ども、大学生、労働世代まで—」

「子どもの眠りとお母さんの眠り」

松尾雅博（滋賀医科大学医学部精神医学講座講師）

「子どもの眠りと発達・小児科医の視点から」

阪上由子（滋賀医科大学小児発達支援学講座特任准教授）

「お母さんの眠りと出産育児・婦人科医の視点から」

鈴木幸之助（滋賀医科大学産科学婦人科学講座助教）

「大学生の眠りとキャンパスライフ」

坂井有里枝（滋賀医科大学メンタルヘルス研究会）

「看護師交替勤務と眠りの問題」

立岡弓子（滋賀医科大学看護学科臨床看護学教授）

「働き盛り世代の眠りと労働効率」

鷹見将規（滋賀医科大学睡眠行動医学講座特任助教）

総合討論：

司会 栗山健一（滋賀医科大学医学部精神医学講座准教授）

河村奈美子（滋賀医科大学看護学科精神看護学教授）

参加者：66名

なお、このシンポジウムの内容は本会の広報誌「心と社会」175号（平成31年3月15日発行）に収録した。

3. 広報誌「心と社会」の発行

今日の精神保健福祉が直面する重要課題を取り上げるとともに、国内や海外の精神保健福祉に関する最新情報を掲載した広報誌「心と社会」を次のとおり発行した。

①172号（平成30年6月15日発行） A5判 176頁 2,000部

特集 メンタルヘルスの集い（第32回日本精神保健会議）

「“二重の不幸”から100年～わが国の精神医療がたどった道とこれから」

- | | | |
|----------------------------|----------|--------|
| ②173号（平成30年9月14日発行） | A5判 132頁 | 2,000部 |
| 特集 職場のメンタルヘルスは今 | | |
| ③174号（平成30年12月14日発行） | A5判 124頁 | 2,000部 |
| 特集 第73回精神保健シンポジウム（岡山） | | |
| 「セクシュアリティの多様性について語り、感じ、知る」 | | |
| ④175号（平成31年3月15日発行） | A5判 148頁 | 2,000部 |
| 特集 第74回精神保健シンポジウム（大津） | | |
| 「こころを育む眠り」 | | |

4. 精神保健福祉関係冊子の出版

1) 昨年度に引き続きこころの健康シリーズⅦとして、現代社会の様々なメンタルヘルスに関連した問題を取り上げる「21世紀のメンタルヘルス」（B5判 8頁）を以下のように発行した。なお、発行後はホームページに掲載し閲覧できるようにした。

- ①No.9 コミュニケーションロボットの進化と人間の関わり
 公立ほこだて未来大学 松原 仁 著
 平成30年6月発行 3,000部
- ②No.10 災害時のメンタルヘルスを守るために
 宮崎大学医学部看護学科 原田奈穂子 著
 平成30年9月発行 3,000部
- ③No.11 腸内細菌を介した腸と脳のクロストーク
 ～虫の知らせを科学する～
 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室 黒川駿哉・岸本泰士郎 著
 平成30年12月発行 3,000部
- ④No.12 運動と心の健康
 ー運動はメンタルヘルスにどう関わるかー
 公益財団法人明治安田厚生事業団体力医学研究所
 永松俊哉 著
 平成31年3月発行 3,000部

2) 呉秀三の「精神障害者私宅監置ノ実況」刊行100年を記念する事業の一つとして「図説 日本の精神保健運動の歩み 改訂増補版2018」（A4判 172頁 1500部）を11月に発行した。企画・編集にあたっては樋口輝彦理事を編集委員長に、竹島正、後藤基行、中村江里の3氏に編集委員を委嘱した。

5. 映画「夜明け前―呉秀三と無名の精神障害者の100年」が完成

呉秀三「精神病者私宅監置ノ実況」刊行100年記念事業として、昨年度よりきょうされん（旧称：共同作業所全国連絡会）と共同で製作していた映画「夜明け前―呉秀三と無名の精神障害者の100年」が完成し、5月14日に東京新橋

のスペース FS 汐留で関係者を招いて試写会を行った。6月2日～8日まで渋谷のアップリンク渋谷で上映され、好評を博し上映期間が7月6日まで延長された。本映画は第60回科学技術映像祭の文部科学大臣賞（教育・教養部門）を受賞した。

6. 公益社団法人日本精神保健福祉連盟の一員として国内の精神保健福祉諸団体と協力した。また、広報誌「心と社会」の海外ニュース欄にて世界の精神保健関連情報を紹介した。